

教育局	留萌	学 校	北海道遠別農業高等学校	課 程	全日制制課程
-----	----	-----	-------------	-----	--------

1 学校教育目標

- (1) 礼儀正しく、誰に対しても敬意と感謝の気持ちを持ち、自分を律して節度ある行動がとれる人
- (2) 主体的に学び、探究的学びを通して物事を論理的に考え、適切な判断ができる人
- (3) 豊かな心で人を思いやり、有言実行するたくましさを持ち、周囲から信頼される人

2 スクール・ミッション

- (1) 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- (2) 郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成
- (3) 海外農業視察研修を通して、国際情勢に関する認識を深め、グローバルな視点で農業問題の解決を目指すとともに、実社会で活躍できる生徒の育成
- (4) 中学校教育との接続を踏まえ、集団生活や特別活動を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成

3 3つの方針（スクール・ポリシー）

○育成を目指す資質・能力に関する方針
1) 農業における実験・実習やプロジェクト学習を通して、基礎となる知識や技術を身に付け農業の振興や社会貢献に主体的に取り組むことができる能力。
2) 探究的な学習を通して、主体性や課題解決能力を養い、試行錯誤しながら粘り強さと柔軟な発想で課題解決をしていける能力。
3) 多様な人々との対話や協働を通じて、人を思いやり、他人を尊重しながら、コミュニケーションをとり、新たな価値やより良い社会を創造していける能力。
○教育課程の編成及び実施に関する方針
1) 共通科目と農業科目に関する基本的な知識や技術を探究的・対話的・横断的な要素を多く取り入れながら学び、社会で通用する実力をつけるための教育課程。
2) 観点別評価の結果を生徒にフィードバックし、評価の結果が次の学習意欲に繋がり、生徒の主体性や課題発見力の育成に繋がる教育課程。
3) 地域や関係機関と協働や体験学習を積極的に取り入れ、自らの可能性や社会貢献意識を高め、多様な進路選択ができる教育課程。
○入学者の受入れに関する方針
1) 自然や動植物、食料生産や環境等に興味を持ち、日々の学業で専門知識を身に付けようとする生徒。
2) 将来の進路実現に向けて、目標を掲げて学業等に積極的に取り組む生徒。
3) 基本的な生活習慣を身につける意欲がある生徒。
4) 他者と協働して学校生活に参画できる生徒。

4 経営方針

2026.04.04

生徒の可能性を引き出し、教育課題に真摯に向き合うことで着実な学びを保障する。また、地域や産業界と連携する探究活動を推進し、持続可能な地域の創り手として、自ら未来を切り拓く人材を育成する。

- (1) 農場及び学校施設と人的ネットワークを最大限に活用し、創意工夫をもった課題解決プロセスを通じ、将来の地域の創り手として新たな価値を創造し、自律して社会を生き抜く実践的な力を育成する。
- (2) 日々の授業、実験・実習及びプロジェクト学習と総合的な探究の時間を核に、現場の諸課題を論理的に解決する能力を養う。専門知識と本質を問う学びを融合させ、実社会の困難に直面した際も、しなやかに適応し乗り越える力を醸成する。
- (3) 教科横断的な学びを推進し、問題発見・解決能力を深化させる。観点別評価の結果を生徒へ還元し、自らの成長を省察させることで、主体的な学習意欲を継続的に引き出す教育課程を編成・実施する。
- (4) 校訓「礼・知・信」を根幹とし、他者から信頼される誠実な人間性を育む。寄宿舎生活や特別活動を通じ、他者との対話・協働して目標を達成する力の育成と、次世代リーダーに求められる素養を磨く。
- (5) いじめは絶対に許さないとの認識のもと未然防止を徹底する。教職員による観察と情報共有を密に行い、いじめを認知した場合には、被害生徒を絶対に守り抜くとともに、早期解消に向け迅速かつ組織的に適切な対応を行う。

5 指導上の重点事項

重点 目標	地域や産業界と連携した探究活動を深化させ、論理的思考と創意工夫で新たな価値を創出する実践力を育む。また、観点別評価の活用により主体的な学びを支え、校訓「礼・知・信」のもと、多様な他者と協働し、困難を乗り越えられる地域の創り手を育成する。
学 習 指 導	<p>【個に応じた最適な学習支援と機会の保障】 生徒の学力や支援ニーズに基づいた個別最適な学びの実現のために柔軟に授業改善を行う。また、サポート委員会や関係機関と密に連携し、安心して学べる環境を整備する。</p> <p>【多角的評価と公開授業を通じた授業改善の推進】 授業評価や公開授業等の結果を客観的に分析し、組織的な授業改善を推進する。教員間の相互研鑽を活性化させ、生徒の資質・能力を育む質の高い教育課程を実現する。</p> <p>【教科横断的な探究学習と学習習慣の定着】 各教科が縦横的に連携し、実社会の課題に挑む探究的な学びを推進する。論理的思考力や問題発見能力を養うとともに、自ら計画的に取り組む自律的な学習習慣を育む。</p> <p>【ICT端末の利活用促進と学習成果への効果的接続】 ICT端末の日常的な活用を促進する。単なる操作習得に留まらず、情報活用能力を基盤とした思考の深化や、創造的な発信などの学習成果へ接続する。</p>
生 徒 指 導	<p>【豊かな人間性と規範意識を育む生活指導の充実】 校内・寮内巡視を通じ、心通う挨拶や礼儀の風土を醸成する。道徳教育を基盤に、思いやりと自発的な意欲を持ち、校訓「礼・知・信」を体現する誠実で心豊かな生徒を育成する。</p> <p>【主体性を引き出す農生会活動と特別活動の推進】 農生会や各種委員会の自発的な活動を支援し、自治能力を向上させる。多様な特別活動を通じ、生徒の多面的な成長を促すとともに、他者と協働して目標を達成する力を養う。</p> <p>【生徒の変容把握と組織的な教育相談体制の強化】 ICTの活用による生徒の変化やサインの把握に努める。教職員間の情報共有を密にし、教育相談等を通じて生徒の困り感に寄り添った迅速かつ組織的な支援を行う。</p> <p>【個別支援の充実と学校生活への満足度向上】 サポート委員会と連携し、個別の指導計画に基づく適切な配慮を徹底する。一人ひとりの特性に寄り添った支援を通じ、全ての生徒の安心感と学校生活への満足度を向上させる。</p> <p>【安全・快適な寮環境の堅持と対人スキルの確立】 寮生活を通じ、挨拶や清掃等の基本的な生活習慣を定着させ、全員が安らげる安全・快適な居場所を創出する。安定した生活基盤を土台に、学年を超えた交流やルール遵守によって協働する力や仲間意識を醸成し、社会で自立・共生するための実践的対人能力を習得させる。</p>

進路指導	<p>【自己理解を深め人生設計を支援するキャリア教育】 系統的な指導を通じ、自己理解に基づいた人生観やライフステージを意識させる。生徒一人ひとりが自己実現を図れるよう、将来の目標に向けた具体的なキャリア形成を支援する。</p> <p>【専門教育と産業連携を活かした実学実践の展開】 本校の専門性を活かし、実社会の課題に挑む実学教育を展開する。外部実習の事前・事後指導を徹底し、産業教育を通じた実践的なスキルの習得と働くことへの意欲を喚起する。</p> <p>【校内連携と外部機関活用による進路開拓の推進】 分掌間や地域、外部機関と密に連携し、多様な進路先を開拓する。多角的なネットワークを最大限に活用することで、生徒の適性に応じた進路実現に向けた支援体制を強化する。</p> <p>【個別の状況に応じた伴走型の進路サポート体制】 教職員間での情報共有を密にし、保護者や外部機関と連携した個別支援を強化する。支援を要する生徒への体制を構築し、個々の特性に寄り添いながら進路決定まで伴走する。</p>
健康・安全指導	<p>【未然防止を徹底する安全指導と防災教育の推進】 施設点検と日常的な啓発で事故を未然に防ぐ。保健安全計画に基づき、行事や部活動等での指導を徹底するとともに、学校全体の危機管理意識を共有する。</p> <p>【迅速な情報収集と家庭・関係機関との連携】 日常の観察から迅速に情報を収集し、危機発生時は家庭や関係機関と密に連携する。適切かつ迅速な対応体制を整え、生徒の心身の安全を組織的に守り抜く。</p> <p>【生徒の自己管理能力向上と環境美化の推進】 健康・安全に対する自己管理能力を養い、環境美化意識を高める。生徒の自主的な活動を促し、自分たちで安全で快適な学校環境を創り出す姿勢を育む。</p> <p>【あらゆる教育現場の安全管理と心身のサポート】 教室、農場、寮など全活動現場の管理を強化し、事故防止に万全を期す。一人ひとりの心身の健康状態を把握し、学びの土台となる安全な環境を継続的に確保する。</p>
実習指導	<p>【農業の基礎確立と生産価値の創造】 農業の基礎的基本的な栽培・飼育の知識・技術を体得し、経営意識の向上と生産現場で通用する実践力を定着させる。また、食の安全や環境保全に配慮した工程管理の視点を取り入れ、地域から信頼される農畜産物・加工品を生産する力を養う。</p> <p>【課題解決型の実践力と主体的態度の育成】 日々の学習や農業クラブ活動の中で、課題発見から解決に至る探究プロセスを重視する。仲間と協力して計画・実践・評価（PDCA）を回すことで論理的思考力を磨き、自ら考え的確に判断して行動できる主体的な態度を育成する。</p> <p>【地域に根ざした持続可能な社会の創り手の育成】 外部機関や産業界との連携を深め、実社会の多様な知見に触れる機会を創出する。また、地域課題への協働を通じて、持続可能な社会の発展に貢献しようとする実践力を育成する。</p>